



令和 7 (2025) 1.15  
NO.149

# 会報

〒420-0853 静岡市葵区追手町 3 番 11 号 しずおか焼津信用金庫追手町ビル 6 階 TEL: 054-255-4678 FAX: 054-255-4699  
URL <https://www.hs-pta-shizuoka.net/> E-mail [post@hs-pta-shizuoka.net](mailto:post@hs-pta-shizuoka.net)

## 年頭のごあいさつ

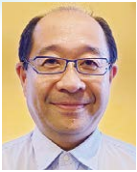
あけましておめでとうございます。年頭にあたり、県高P連の会長及び副会長からのごあいさつを掲載します。本年も、よろしく願いいたします。



■会長 住吉 明  
(静岡農業高校 顧問)

昨年は、全国高P連の「会長・事務局長連絡会」に出席し、全国のPTA会長の皆様と情報交換をさせていただきました。地域の特色を活かした活動や、公立高校が直面している課題など様々な意見を伺うことができ、今後の活動の参考となりました。子どもが学校に通う期間に限られてはいますが、仲間たちと有意義な時間を過ごすことで、その貴重な経験が一生の思い出となります。「できる人が、できる時に、できる事を」。子どもたちのために何をするべきかの視点で学校と連携し、皆様のお力添えを賜りながら、子どもたちの成長を支えていきたいと思っております。

本年六月には「東海地区高等学校PTA連合会静岡大会」が開催されます。多くの方が集い、子どもたちの未来や今後の活動を創り上げるきっかけとなる大会にしたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。



■副会長 杉山 大一  
(葦山高校 相談役)

近年PTAを取り巻く環境が変化を

している中、昨年、茨城で行われた全国大会での研修会で、PTAの存在、役員選定、会員の加入、クレーム等への考え方を受講いたしました。とかくPTA活動の悪い事ばかりが公になり、地道に活動をされている方の妨げになる様なニュースが世間を賑わせている今日、美辞麗句の建前論では、これからの活動に支障をきたす事も考えられ、今以上に、活動を認識して頂く策を築き上げて行く必要性が有るかと思っております。今後も、会員の皆様と共に邁進して行きたいと考えております。



■副会長 河田憲一郎  
(沼津工業高校 参与)

新年おめでとうございます。

各PTA会員様、会長、副会長、会計、各役員、校長先生、事務長、会計担当、PTA担当の先生方など、日頃は各校PTA活動に御尽力いただきありがとうございます。皆様一人一人のおかげで、子ども達が育つ環境が整備されています。皆さんの二〇二五年が幸せな一年であることを願っています。



■副会長 山本 泰三  
(清水桜が丘高校 顧問)

昨年は副会長として県中部地区のPTA指導者研修会や東海大会、全国大会など様々な会議や講演会に出席させて頂き、多くの方々とお話しする機会を与えて頂きました。ありがとうございます。学校を取り巻く環境は日々変化していますが、そんな中でも子ども

達はアジャストして充実した高校生活を送っています。我々PTAも時代に応じた変化や対応を求められている中で、自分に何が出来るのか模索しながら残りの任期を全うしたいと考えております。



■副会長 原 拓也  
(浜松北高校 顧問)

今年度より、県高P連副会長を仰せつかっております。少子高齢化・働き世帯の増加等社会生活の多様化・複雑化に伴い、PTAの在り方にも様々な課題がありますが、そんな時代だからこそ、日々、起こりうる学校生活や生徒の問題に、教師と保護者が一体として取り組むことの重要性は、むしろ益々高まっているものと考えます。今後とも微力ではありますが、PTA活動の活性化に力を注いでまいりたいと思っております。

## Contents 目次

年頭のごあいさつ	1
全国高P連大会茨城大会報告	2
地区PTA指導者研修会	2~3
高校生善行表彰	3~4
学校紹介・単位PTA紹介	
静岡県立三島長陵高等学校	5
静岡県立焼津中央高等学校	5
静岡県立天竜高等学校春野校舎	6
静岡県立掛川特別支援学校	6
静岡県教育委員会 高校教育課	7
静岡県教育委員会 特別支援教育課	7
令和7年度の予定 (全国・東海・県)	8

**全国高P連大会茨城大会報告**

本年度の全国大会は、八月二十二日(木)・二十三日(金)に、茨城県水戸市を中心とした五会場で開催されました。大会テーマは、黄門様の地らしく「歴史の町で変革を！新たな時代が目に入らぬか」でした。今年の大会も現地参集とオンラインのハイブリッド開催であり、コロナ以降この形が一般的になったと感じさせられました。大会全体では、役員等を含めて五六六九人(オンライン参加二五九校)、本県から二六一人、オンラインを含めて八十四校が参加しました。

初日は、参加者は高P連が用意したシャトルバスなどを使い、各自分科会の会場に向かいました。各会場で茨城県の高校生によるアトラクションを堪能した後、水戸藩校弘道館の教育等がテーマの第一分科会、発達障害や十八歳成人がテーマの第二分科会、フリートークの第三分科会、PTAに係るグループトークの第四分科会、地域社会との連携・協働をテーマにした第五分科会など、多様な学びの場がありました。また、夜は恒例の静岡県高P連情報交換会が開催され、地区、学校、教職員・保護者の枠を超えネットワーキングができました。

二日目の開会式は、板倉実行委員長のあいさつと田名部全国高P連会長の式辞で幕を開け、文部科学大臣(代読)・茨城



表彰を受ける本県関係者



高校生による販売ブース

県知事・水戸市長からの祝辞があり、その後の表彰式で、本県からは以下の団体及び個人が、PTA活動に係わる表彰を受けました。

**【優良PTA文部科学大臣表彰】**

**○静岡県立静岡農業高等学校**

・会長を中心に、約二十名の本部役員、五十名を超えるクラス役員が協力的に運営し、行事に大変多くの会員が参加し、学校の教育活動に高い関心を持っている。・文化委員会、安全委員会、進路委員会があり、それぞれ企画、運営している行事があり、すべてに取組が良好であり、さらに静農祭(文化祭)でのPTA模範店の完成度の高さが非常に素晴らしい。

**【全国高P連会長表彰(個人)】**

**○佐野孝之(県立韭山高等学校所属)**

単P会長として、学校の長い伝統と新しい取組とに折衝を付け、力強くPTA活動を牽引した。県高P連副会長としても、コロナ禍からの活動再開に指導力を発揮した。

**○諏訪部孝敏(県立富岳館高等学校所属)**

農業高校に由来を持つ総合高校のPTA会長として、キャリア教育の推進に力を尽くし、併せて小学校のPTA会長から通算し、単P会長を計七年間勤めあげ、その知識や経験を県高P連の舵取りに活かした。

**○中里功(県立浜松北高等学校所属)**

単P会長として、学校と密な連絡を

取り、PTA活動の活性化に尽力した。県高P連副会長及び東海地区高P連の理事としても、PTA活動の充実、発展に役割を果たした。

**【全国高P連会長表彰(団体)】**

**○県立三島長陵高等学校PTA(会長 瀬川貴子)**

支援を必要とする生徒等への支援体制や進路実現に向けての補助、文化祭への模範店出店、ガーデンシテイミシマ推進事業への参加など、学校及び地域と連携した多岐にわたる活動により、学校運営に大きく貢献している。

**○県立焼津中央高等学校(会長 後藤陽子)**

PTA地区会の廃止、規程の改訂などPTA活動のスリム化を図り、活動を効果的に行っている。本年度は、大学習見学、校内美化活動、登校指導を実施し、学校や地域と連携した活動を継続している。

**【全国高P連会長表彰(役員等個人表彰)】**

**○三輪高太郎(県立浜松北高等学校所属)**

小学校単P会長二年、中学校単P会長二年、高校単P会長一年を経て、県高P連副会長三年、県高P連会長二年、東海地区高P連副会長二年と役職を歴任し、本県・東海・全国のPTA活動に多大な寄与をした。

休憩の後、記念講演の講師として壇上に上がったのは、二所ノ関親方(第七十二代横綱稀勢の里)でした。講演内容は以下のとおりであり、まじめで、誠実で、向学心や探究心に溢れた講師の人柄が良くにじみ出ていました。最後に閉会式が挙行され、二日間の大会が締めくくられました。来年度の全国大会は三重県で開催され、本県を含む東海地区が大会のホスト地区になります。多くの会員様の御参加をお願いいたします。

**【記念講演】**

「人材育成の不易流行」

**地区PTA指導者研修会**

二所ノ関親方は、現役時代に平成の大横綱白鵬関と数々の名勝負を繰り広げ、現役時代は八百勝をあげた人気力士でした。引退し自分の部屋を開くにあたって、それまでの慣例を破って、部屋の立地を茨城県とし、昔ながらの基本稽古を重視しつつも、科学的なトレーニングを導入し、スケジュール管理アプリを使って現代っ子である弟子の生活環境に目を配り、大学で学んで地域を巻き込むスポーツ・ビジネスの観点も取り入れるなど、古さと新しさを両立させようと日々努力を重ねているとのことでした。親方の講演は、茨城大会のテーマである「歴史の町で変革を」を象徴する内容で、とても興味深く、また大いに勉強になりました。

本年度も、県下十地区と特別支援学校PTA連合会が主催する「地区PTA指導者研修会」が、六月から十月にかけて開催されました(詳細は次ページの一覧表を参照)。

キャリア教育、消費者教育、教科やスポーツの持つ魅力、ネット社会、高校生の心理、言葉の持つ魅力、困難を乗り越える力など、各地区世話人校・研修担当校のお骨折りで多彩な学びと交流の機会をつくっていただき、全県で合計千百人を超える会員の皆さまに御参加をいただきました。

高P連では、今年度末も報告書を刊行し、各加盟校への配布を予定しています。他地区の活動を知り、令和七年度の開催に向けたネタ作りのためにも是非報告書を活用していただければ幸いです。



あいさつする佐吉県高P連会長



令和6年度静岡県公立高等学校PTA連合会 地区PTA指導者研修会(実施一覽)

Table with 3 columns: 地区名(世話人数), 日時・会場 参加者数, 研修テーマ・講演テーマなど. It lists various PTA events across different regions in Shizuoka Prefecture.

参加者 計1,168名(全県)

きみのやさしさにありがとう 高校生善行表彰

十月十八日に開催した選考委員会で、一件一件、丁寧に推薦書を読み込みながら、表彰可能な行為か議論を重ねました。最終的に、住吉委員長(県高P連会長)の裁定で、今年度は推薦されたすべての個人・団体を表彰することとしました。

受賞された個人及び団体には、本会から賞状と記念品を贈呈しました。本年度の追加推薦は二月四日(火)がメロ切となります。詳しくは本会のホームページをご覧ください。

受賞者 十月十八日現在 ※( )は昨年度個人の部 十四校・三十七人(十九校三十二人) 団体の部 四校・五団体(六校八団体)

【個人の部】

静岡県立沼津商業高等学校

- 一年生 山梨 凌右 さん
一年生 菊池 桃花 さん
一年生 後藤 幸樹 さん

令和六年四月二十二日下校中、自転車転倒し怪我をした高校生を目撃し、介抱した上で所属校、警察、救急隊に連絡し、現場の安全確保と警察の事情聴取等への協力を行った。

静岡県立科学技術高等学校

- 三年生 稲森 正 さん

令和六年七月十九日登校中、通りがかった自動車同士の交通事故現場において、交通整理や警察官の事情聴取に協力した。

静岡県立静岡高等学校

- 二年生 鈴木 敬稔 さん
二年生 是永 陸羽 さん

令和六年七月二十日、安倍川花火大会で迷子になった二歳男児を励ましなが、混雑する会場で保護者を探し続け、警察による発見解決につなげた。

静岡県立掛川工業高等学校

- 二年生 大谷 侑生 さん
二年生 岡田 凜央 さん
二年生 深尾 航大 さん
二年生 守田 羽也斗 さん

令和六年五月九日夕方、学校近くの路上で転倒した高齢男性を見つけ、地域の方と協力して応急手当や救急車の手配と誘導及び学校への応援要請を行った。

- 一年生 大山 隆誓 さん

令和六年九月一日夕方、転倒した高

齢女性を見つけ、地域の方と協力して応急手当をし、救急車の手配と誘導を冷静かつ迅速に行った。

静岡県立磐田南高等学校

- 三年生 石井 香衣 さん
三年生 梅田 鈴菜 さん
三年生 杉浦 花音 さん
三年生 鈴木 心海 さん

令和六年六月二十六日夜、バイクと軽自動車の衝突事故に遭遇し、救急車を要請した上で怪我をした人物の救助、散乱した破片の片付け、交通整理等を行った。

静岡県立浜松大平台高等学校

- 三年生 大石 幸矢 さん

令和六年七月九日登校中、怪我をしてうずくまっていた小学生を見つけ近くの方と協力して救助にあたり保護者が到着するまで付き添った。

静岡県立浜名高等学校

- 三年生 池谷 美緒 さん

令和六年四月十六日登校中、自転車に乗った中学生と乗用車の事故を目撃し、はねられた中学生に声をかけて当人が落ち着くまで介助するなどの救援活動を行った。

- 三年生 野澤 康佑 さん
三年生 津田 廉大 さん

令和六年九月二日、近隣の小学校を飛び出し浜名高校周辺を泣きながら歩いている小学生を見つけ保護し、無事児童の小学校の教職員に引き渡した。

二年生 松本 悠佑 さん

令和六年九月四日、遠州鉄道新浜松駅で白杖を持った視覚障がい者の方が、階段とエスカレーターの移動に困っているのを見て、適切に誘導と介助を行った。

静岡県立藤枝東高等学校

二年生 巻野 結衣 さん

一年生 大石 南実 さん

令和六年五月下旬、市内の交差点において自転車で転倒し怪我をした男子中学生を見つけて声をかけ、自校の保健室まで付き添い手当につなげた。

三年生 上野 祥悠 さん

三年生 川口 瑠子 さん

三年生 清水 美来 さん

三年生 高野 莉子 さん

三年生 長島 悠真 さん

三年生 増田 陽菜 さん

三年生 宮坂 苑香 さん

令和六年五月下旬、学校近くの交差点において自転車で転倒し怪我をした男子中学生を見かけ、自校の保健室まで付き添い保護者への連絡と救急外来の受診につなげた。

静岡県立伊豆中央高等学校

一年生 長澤 朋 さん

令和六年八月十日朝、部活動で訪問した山中湖の周回コースで自動車の自損事故を目撃し、運転手の怪我の有無を確認した上で、路側帯に乗り上げた車の救出に力を貸した。

二年生 森島 昊聖 さん

令和六年二月三日、沼津駅で倒れて

いる高齢女性を発見し、すぐに交番に連絡をした上で救急車が到着するまで女性に寄り添って声かけを行い、励ました。

静岡県立相良高等学校

三年生 柴田 姫愛 さん

学校のSC日活動に三年間で累計二十三回参加し、特に海岸清掃のボランティア活動に多く取り組み、奉仕活動の意義や重要性を理解し、学校生活でも多く貢献する姿が見られた。

静岡県立榛原高等学校

二年生 北西 快名 さん

令和六年九月十二日登校中、道路に倒れていた年配の女性を発見し、本人に確認しながら救急隊に状況を伝えてその到着を待ち速やかな救助につなげた。

静岡県立清流館高等学校

二年生 鈴木 翔成 さん

二年生 鈴木 愛斗 さん

令和六年九月二十一日昼、帰宅が困難になり困惑している高齢者に代わり、携帯電話で周囲の状況等を家族に伝え、目印となる飲食店まで付き添い帰宅を支援した。

静岡県立横須賀高等学校

一年生 笹本 超飛 さん

令和六年九月一日夕方、雨の中転倒し怪我をした高齢女性と遭遇し、声をかけて介抱した上で近くの方と協力して救急車による搬送につなげた。

静岡市立清水桜が丘高等学校

三年生 山田 翔生 さん

令和六年五月二十日夕方、市の同報無線で伝えられた行方不明者と同じ特

徴の高齢女性を発見し、声をかけ警察への連絡と引渡しを行った。

【団体の部】

静岡県立浜松湖東高等学校

フェアトレード研究会

令和二年から、校内での探究活動を活かしフェアトレードへの学びを深め、生産者を訪問し交流する中で、常に問題意識を持って支援の募金活動などを展開している。



関係生徒一同

令和三年から、「湖東の場所（コトバシヨ）」の活動を始め、日々改善に努めながら、地域の小中学生への憩いの場所の提供や学習支援に取り組んでいる。



静岡県立浜松工業高等学校

関係生徒一同

令和六年七月三十日昼頃、学校北側防風林周辺から火災が発生し、その場に居合わせたラグビー部員と全日制定時制の有志生徒が消防署員と共に協力して消火作業にあたり延焼を食い止めた。



静岡県立稲取高等学校

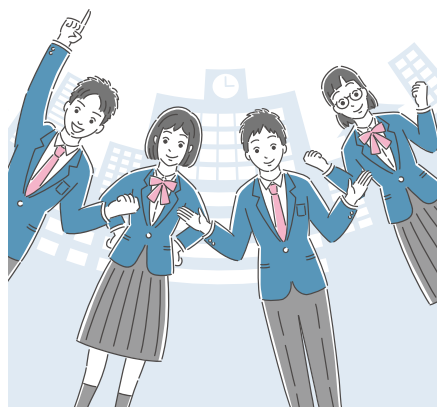
ボランティア部

平成二十四年から、夏休みを利用して地域の小学校に出向いて学習を支援する「ぐんぐん教室」の活動に取り組み、小学校や地域社会から感謝されその活動の幅を広げ、参加の意識を向上させている。



音楽部

平成二十四年から、春風会特別養護老人ホームあしたかホームの「ホーム祭り」に毎年参加し、合唱を披露して利用者の方々との交流を続け、さらに令和五年度には幼稚園児の歌唱指導も行っている。





## 静岡県立三島長陵高等学校

### 学校紹介

本校は、東部地域唯一の単位制・三部制の定時制高校として平成二十年に開校しました。



生徒の多様な学習ニーズに対応した教育課程を編成しています。ライフスタイルに合わせて所属する部（I部は主に午前、II部は主に午後、III部は主に夜間）や、受講科目、在学期間を自分で決定します。また、一般的な学校にある「学年」「学級」とは関係なく授業者が異なり、友人関係を広げることができます。

校訓「自律・創造」のもと、次の四つの力の育成を目指しています。  
・自分で考えて判断し、自分の「強み」を生かして主体的に行動できる力  
・人とかわる中で多様な生き方を認め、他人を思いやり、尊重できる力  
・様々な学びや経験の中から新たな価値あるものを生み出し、社会に貢献できる力  
・自分自身と母校に誇りを持ち、生涯にわたり自分を磨き続ける力

校長 石垣 智博



### PTA紹介

本校PTAの主な活動を、三つ紹介します。



まず、春と秋の二回、市役所の方々と共に三島駅北口前広場に花を植え、地域美化に貢献しています。次に文化祭（長

陵祭）での活動です。コロナ禍で中止されていた食事の提供「長陵家」を復活させ、令和五年度は牛丼、本年度は牛丼に加えて肉うどんを販売し、大盛況となりました。

さらに、PTA会報の作成にも力を入れ、保護者間の情報共有を推進しています。

本校PTAは「無理せず、できる人が、できる時に、できる事をする」という、柔軟で参加しやすいをモットーに掲げ、保護者一人ひとりが無理なくPTA活動に関わることができるように努めています。皆が協力し合



い、意見を出しやすい和やかな雰囲気の中で活動を行うことで、生徒や学校のサポートを続けています。

PTA会長 瀬川 貴子

## 静岡県立焼津中央高等学校

### 学校紹介

焼津中央高校は、学校創立六十二年目を迎え、先輩方が培ってきた素晴らしい伝統を背負いながら、生徒と教員が一丸となって魅力ある学校づくり邁進し、新たなブランドを築いています。国立



公立大学に多くの生徒が合格するなど進路実績を残し、部活動においては、合唱部のオペラ公演、吹奏楽部の定期演奏会に加え、弓道部やレスリングなどは東海、全国へと活躍のステージを上げています。また、中央祭、英語研修、小笠原諸島研修など、様々な学校行事にも力を入れており、本校のスローガンである「たくましい心身・たしかな知性・豊かな心」を体現し、真に社会に貢献し得る人材の育成を実践しています。

総合的な探究の時間では、学年を超えて、SDGsの達成に向けて探究的な学習を進めています。また、様々な専門分野で活躍する講師による大学模擬授業・各種セミナー等、豊富な機会を通して多面的・総合的な視点から生徒の主体性を育てています。

「文武芸三道を実践し、優れた仲間と切磋琢磨し、自らの夢を実現できる学校」「生徒の頑張りを全職員が全力で応援する学校」「生徒一人ひとりが尊重され、その学びが保障される学校」このような学校を目指して、今後さらに学習環境と進路指導の充実を図れるように取り組んでいます。



校長 遠山 一郎

### PTA紹介

本校PTA活動は、八名の本部役員と三つの委員会が活動しています。評議員は、本部役員と十二地区の二、三年生の保護者二十四名で構成されています。



委員会は、進路・生活安全・保健委員会があります。進路委員会は、大学見学会への参加、勉強合宿見学、進路保護者説明会（二、三年）の手伝いを行っています。生活安全委員会は、年四回の校外交通指導を行っています。保健委員会は、年二回の校内環境美化活動と学校保健委員会の開催をしています。

この他にも、PTA研修会への参加、PTA学習支援・進路指導支援・部活動支援事業、一年生対象のPTA職業講話を開催しています。本部役員は、PTA総会や評議員会の開催・各委員会と学校との橋渡しをしています。今年度は、PTA事業は、継続しつつ、活動のスリム化を図り、役員定数と委員会業務の削減をいたしました。保護者に負担の少なくなるような取組をしています。

子どもたちにとって何が必要で何が不要であるかを学校と模索しながら、よりよい活動ができるように日々取り組んでいきたいと思っています。



PTA会長 後藤 陽子

## 静岡県立天竜高等学校春野校舎

### 学校紹介



昭和二十四年に静岡県立周智農業高等学校犬居分校として創立し、その後幾度かの改称を経て、昭和五十五年に静岡県立春野高等学校となりました。その後、春野高校として三十四年の歴史を刻み、平成二十六年四月に、天竜林業高等学校、二俣高等学校、春野高等学校の三校の再編整備により天竜高等学校が開校し、その春野校舎としてスタートしました。これまでに、約四千三百名の卒業生を世に輩出し、地元、春野地区や天竜地区はもちろん、各地、各業界で活躍しています。

日本有数の清流である気田川や周囲の美しい山々に囲まれた校舎では、小規模校であるからこそ、日々の教育活動において生徒一人ひとりの活躍の場面が多く、三年間の高校生活を通して生徒の個々の力が最大限に引き出されています。春野高校時代からの校訓「立志力行 師弟同行」の理念のもと、今後も生徒が「個」として大切にされる環境の中で、生徒と教職員が様々な活動に一緒に取り組み、夢や希望に向かって努力し、自分らしく生きることを実現する学校を目指していきます。



校長 渡邊 二三彦

### PTA紹介



春野校舎のPTAは、小規模校の特性を活かして、シンプルで小回りの利く活動を行っています。特別な委員会活動などはありませんが、子どもたちの学校生活のサポートをしたり、行事を参観して成長を見届けたりすることを大切にしています。PTA総会の出席率は近年七十%台を維持していますし、文化祭には家族のみならず親戚も加わって見学に訪れる人たちもいるほどです。今年は文化祭で地元野菜などを販売して、賑わいに微力ながら協力しました。体育大会や球技大会にはスポーツ・ドリンクを配ったり、基礎学力コンテストでは優秀者を表彰したりしています。

今年度は、磐田地区の指導者研修会を担当しました。当日は役員で受け付けを行い、係の分担や資料の配り方を話し合っており、皆で協力して行いました。役員同士の親睦の機会ともなり、今後の活動の励みになりました。



PTA会長 松田 直美

## 静岡県立掛川特別支援学校

### 学校紹介



静岡県立掛川特別支援学校は、掛川市の中心部よりやや南に位置する「希望の丘福祉エリア」と呼ばれる場所の一角にあり、平成二十七年四月に開校し今年で十年目を迎える、知的障害と肢体不自由の障害のある児童生徒が通う特別支援学校です。

令和六年度の児童生徒数は約二百七十人で、掛川市、菊川市、御前崎市などからスクールバスや保護者の送迎、路線バス等を通っています。校訓に「元氣・笑顔・夢の実現」を掲げ、学校教育目標「いきいき学び地域と共によりよく生きる人を育てる」を目指して、通常の教科による指導のほか、日常生活の指導や生活単元学習、作業学習など、特別支援学校ならではの教育課程も織り交ぜながら、小学部一年生から高等部三年生までの十二年間を通じた指導を実施しています。一人一人が主体的に学び、自分の良さを生かし、人や社会とつながりながら、その能力や可能性を最大限に発揮して、自立した生活する姿を目指しています。

校長 赤澤 智子

### PTA紹介



私たち掛川特別支援学校PTAは約三十人の役員で活動しています。昨今の家庭環境の変化により、PTA活動に時間を割ける保護者も減少しているため、「できる人が、できることに、できることを」を意識し、奉仕作業は運動会や参観日に実施するなど、保護者が参加しやすい環境を整えて活動しています。

今年度はPTA主催の講座として「先輩保護者に学ぶ会」を開催しました。支援学校の生徒たちの卒業後の生活に関しては、保護者が様々なサポートをすることが求められます。そのため、本校PTAでは、会員の皆様の力を高めるお手伝いすることを目標に、特別支援学校を卒業されたお子さんを持つ先輩保護者をお招きし、生活介護事業所や就労先の様子についてお話し頂きました。障害がある子供の将来に対する関心は高く、約七十人の保護者が集まりました。私たちは、一人一人が負担なく取り組める持続可能なPTAを目指して、今後も様々な活動に取り組んでいきたいと思っています。



PTA会長 伊藤 志保



「国際ハカロレア（IB）教育の推進」  
県教育委員会高校教育課

静岡県では、令和六年度に開校した「県立ふじのくに国際高校（島田市金谷）」において、令和八年からの国際バカロレア（IB）教育導入を目指しています。



開校したふじのくに国際高校

IB教育とは、IB機構（本部ジュネーブ）が提供する国際的な教育プログラムであり、探究スキルや課題発見・解決能力、コミュニケーション能力を育成するため、少人数の双方向・協働型授業による探究学習を実践することとしています。これは、予測不可能な社会に対応できる人材を育成するため、探究的な学びを重視する本県の方針にも合致しています。

高校生対象の「ディプロマ・プログラム（DP）」を全て履修し、最終試験で一定の得点を取ることにより、海外大学だけでなく国内の大学への進学資格が得られることも大きな特徴です。また、ふじのくに国際高校ではDP六科目のうち二科目（IB英語、IB数学）を英語で、残り四科目（IB国語、IB歴史、IB理科、IB芸術）を日本語で授業を行う「デュアル・ランゲージ・ディプロマ・プログラム（DLLDP）」を採用する予定です。

ふじのくに国際高校では、多様性を自由を尊重する新しい教育の象徴となる高校を実現し、二十一世紀をたくましく生きる人材育成を目指しています。

そのため、大学のように学ぶ科目や時間帯を自由に選択できる「多科目単位制」の仕組みをとっています。また、DPによる国内外大学進学資格の取得を目指す場合、全てのDP科目を履修することになりますが「少しだけIB教育に触れてみたい」と考える生徒は、一部の科目のみ選択履修することも可能とする予定です。このような教育環境を整えることにより、多様な生徒の自己実現や進路実現を目指します。

IB機構が公表する日本全国のIB認定校は二百校を超えますが、現状では私立高校やインターナショナルスクールが多く、手頃な学費でIB教育を受けられることができる公立高校は全国に十一校しかありません。よって、ふじのくに国際高校が認定校になることで、幅広い生徒に教育を受ける機会を提供してまいります。

今後は、IB教育の良さを県民の皆様知っていただくため、ふじのくに国際高校を中心に広報を実施するとともに、先進的な探究学習の取組を全県に広げるための教員研修等を行ってみたいと考えています。



「Cross Border」  
～総合的な探究の時間

「共生社会の実現を目指して」  
県教育委員会特別支援教育課

障害のある人とない人が、居住する地域社会の中で、共に支え合い、育ち、生活する。そのような共生社会を目指すには、学校教育段階から共に生活し共に学ぶ「共生・共育」の取組が必要です。「共生・共育」の理念は、「障害者の権利に関する条約」の中で述べられている「インクルーシブ教育システム」の理念に基づくものであり、県教育委員会として、これからも一層の推進を図ってまいります。

○高等学校内の高等部分校について

平成十四年に伊東城ヶ崎高等学校内に東部養護学校伊東分校高等部が開校して以来、今年度四月には小山高等学校内に御殿場特別支援学校小山分校が開校し、現在では、県内十二校の高等学校内に、特別支援学校の高等部分校を設置しています。令和八年度には浜松之島高等学校内に新たな高等部分校を設置する予定です。



小山高校との交流

高等部分校では、文化祭や体育大会、ボランティア活動等を通じた「行事交流」、毎日学び舎を共にする中での挨拶や食事、生徒会活動を含む「日常の交流」等、障害の有無を超えて同世代の生徒が活動の場を共有しながら、相互に成長し合う交流を深めています。

○高等学校と特別支援学校の「共生・共育」の取組  
静岡市葵区にある中央特別支援学校高等部では、生徒会が中心となり、差別や偏見のない社会づくりを呼び掛ける「シトラスリボン・プロジェクト」に取り組んでいます。この取組は、新型コロナウイルス感染症への偏見が社会に広がったことがきっかけでした。

地域での催しや病院等の施設に配布するシトラス・リボンの作成にあたっては、難しい部分を近隣の静岡中央高等学校の生徒会に協力依頼をしています。それぞれの生徒が自分の力を発揮して役割をリレーし、地域に新たな価値を生み出しています。



シトラスリボンの配布

両校の生徒が手を取り合うことにより、主体的な社会参加の在り方を、学校という社会の中で実現しています。

○今後の「共生・共育」の在り方について  
県教育委員会では、これまでの取組を評価しつつ、文部科学省の方針に基づき、今後の新たな「共生・共育」の在り方を検討しています。

障害理解の促進や多様性を認め合う人権感覚を幼少期から養うこと、「共に過ごし、共に学び合い、共に育つ機会」をさらに創出することが重要だと考えます。共生社会の実現に向けて、「共生・共育」のさらなる推進に努めてまいります。

令和7年度 (2025年度) 静岡県公立高等学校PTA連合会 年間計画 (案)



Table with 4 columns: Date (期日), Time (時程), Day (曜), and Venue (会場). It lists various events for the Heisei 27 fiscal year, including regional and national PTA conferences.

令和8年度 第75回全国高等学校PTA連合会大会大分大会 8月20日(木)・21日(金) (2026年)

令和7年度 第74回全国高P連大会「三重大会」

【大会テーマ】

「出会いはじまる常若のくに～『集い、想い、継なぐ』 三つの重なる明日への力～」

【大会日程】 現地参集・オンライン (アーカイブのみ) 併用

令和7年8月21日(木)

11:30～ 受付

13:00～13:20 アトラクション

13:30～14:30 開会行事、表彰式 (全体会場)

14:45～16:45 分科会 (4会場)

16:25～ 閉会行事

令和7年8月22日(金)

08:30～ 受付 (全体会場)

09:35～09:50 アトラクション

10:00～11:30 記念講演

11:40～12:10 閉会式

【全体会場】 日硝ハイウエアアリーナ (三重県津市) (メインアリーナ・サブアリーナ)

【分科会場】 (全体会場及び隣接会場にて開催)

第1分科会 「子育て、そして親育ち」

第2分科会 「実力発揮のコツ」

第3分科会 「AI時代における Well-Being なキャリアデザイン」

第4分科会 「Let's PTA！」

【参加費】 7,500円 (オンライン7,000円)

※津駅からの公共交通機関やタクシーは渋滞が予想されます。
※静岡県高P連は、四日市市を宿泊地 (含情報交換会) とし、大会会場まで伊勢自動車道などを使った直通バスで往復するツアーを設定する予定です。

令和7年度 東海地区高P連「静岡大会」

【大会日程】

令和7年6月27日(金) 13:00～16:00

13:00～13:25 開会式

13:30～14:10 研究協議

静岡県立浜松特別支援学校PTA

岐阜県岐阜女子高等学校PTA

14:25～15:50 講演会 ※詳細は以下参照

15:55～16:00 閉会式

【大会会場】 静岡市清水文化会館マリナート

【大会申込】 令和7年4月1日以降 (後日各校通知)

※地元開催ですので多くの会員様の来場を期待しています。
また、会場に駐車場はないのでご注意ください。

【講演会情報】

○演題「素直でまじめで優秀でも主体性がない
～そんな『いい子症候群の若者たち』と共に前へ進むために～」(仮題)

○講師 金間 大介 氏

(金沢大学 融合研究域融合科学系 教授)

(東京大学 未来ビジョン研究センター 客員教授)

○講師より皆さまへ

仕事柄、企業の人事部の方から、最近の若者の特徴として、「素直でまじめ」「協調性がある人の話をよく聞く」「言われた仕事をきっちりこなす」といったことをよく聞きます。一方、それと同時に、「自分の意見は言わない。言っても当たり前のことしか言わない」「先頭には立たず誰かの後に続こうとする」といった特徴も頻りに耳にします。



これは一体どういうことなのでしょう？

私はこれらの行動の根底に、「目立ちたくない」「横並びでいたい」「変なこと言って浮いたらどうしよう」という心理特性が働いていると考えています。本講演では、現在の若者の深層心理を多様なデータやエピソードをもとに描写し、今後のコミュニケーションや教育、人材育成に活かしていく方策を考えていきます。

編集後記

先日、小田原市立酒匂中学校の防災取組の報告を読む機会がありました。平成十二年から、青少年健全育成協議会や自治会などと協力し、PTAが防災訓練を企画・運営しているそうです。
家族や地域の機能縮小で、学校には多くの役割が期待されています。防災対策以外にも、犯罪、交通事故、感染症、奨学金など、教職員だけでは手が回りにやっただ方が良い対策が学校には山ほどあります。ここにPTAの出番はないのでしょうか。これからの県高P連では、連合会のスケールメリットを活かし、多くの情報や学びを会員の皆さまに提供していきます。是非、所属する学校で子どもたちのためにできることを考えていただければと思います。
(事務局長・鈴木)